

新年を迎えて

(独)農研機構 果樹研究所 カンキツ研究領域長 ^{なか}中 ^の野 ^{まさ}正 ^{あき}明

新年を迎え、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年は爆弾低気圧・竜巻・大雨・台風被害、干ばつ、秋の高温等、極端な気象状況が発生し、近年の気候変動の影響を感じさせられる年でした。ただ、前年の2011年と比べると、いずれの果物も大きな不作には至らなかったことには安堵しております。今年は天候が平穏であることを願わずにはおられません。気象変動に強い果樹栽培を目指して技術開発を進めていく必要を痛感しています。

さて、昨年の果樹病害虫の発生について振り返りますと、5月に北・東日本で天気がぐずついたことなどの影響で、病害ではナシ黒星病の発生が目立ち、延べ8件の注意報が発表されました。防除指導として薬剤耐性菌への警戒を怠れないのが現状であり、病害抵抗性品種の実用化を促進することが課題です。また虫害では、果樹カメムシ類の春期の多飛来があり、その後も多くの県から延べ37件の注意報が発表されました。適切な防除が行われた所では被害はほとんど回避されたようですが、こちらも、薬剤の天敵類に及ぼす影響への注意が必要です。IPMを基本に生態系の中で害虫を制御する研究のさらなる進展が求められます。その他虫害では、ブドウでのクビアカスカシバや東北でのヒメボクトウ等、枝幹害虫の被害拡大が問題となってきています。

侵入病害虫については、鹿児島県喜界島でカンキツグリーニング病根絶が確認されたことはよいニュースでした。分布の北限からの根絶であり、今後、着実に根絶地域を拡大していくことが期待されます。一方、ウメ輪紋ウイルスについては、国内初確認から4年目となり、東京都西部を中心とする発症確認樹の伐採をほとんど終え、神奈川の発生地では根絶が確認されるなどの前進が見られた一方で、新たに兵庫県伊丹市を中心とする広域の発生が確認されました。この地域はウメ、モモ等の観賞用苗鉢の産地であるため、経済的被害と同時に全国への拡散も懸念されます。これまでの研究成果をもとに果樹生産地だけでなく公園や苗木産地等の調査を呼びかけていたものの、発見が遅れたことは残念なことでした。今後とも植物防疫関係者の総力を挙げて早期発見に努め、根絶を目指したいと考えておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

近年、病害虫防除において薬剤耐性菌・抵抗性害虫が問題化する場面が多く、昨年は日本植物防疫協会主催も

含めいくつかのシンポジウムが開催されました。また、果樹関係では、日本植物病理学会殺菌剤耐性研究会が「野菜・果樹・茶におけるQoI剤およびSDHI剤の使用ガイドライン」を公表しました。研究機関と農薬メーカーの研究者が学会の場で協力し論議した成果です。このガイドラインを遵守することのみで耐性菌問題が解決するわけではありませんが、転ばぬ先の杖として意味がある内容です。さらなる研究の深化が期待されます。

加えて、研究機関、特に県の研究者が中心となり農薬メーカーの研究者とも協力して運営されている、日本植物病理学会のEBC研究会にも触れたいと思います。EBCとは、Evidence-based Controlの略で、「根拠に基づいた病害虫管理」を意味しています。農薬に依存する場面が多い果樹の分野では関心が高く、より効果的な防除体系や、減農薬防除体系の構築のために、科学的エビデンスに基づく判断や防除指導を実現したいとの思いが伝わってくる研究会です。これらの研究会の活動が軌道に乗っていることは、植物防疫の世界においてとても喜ばしいことです。

その他の果樹病害虫の問題として、ナシでのチュウゴクナシギジラミの発生が一昨年の佐賀県に続き山口県でも確認され、ブドウのつる割れ細菌病が一昨年の北海道に続き秋田県でも確認される等、新たな病害虫の発生が各地で確認されています。チュウゴクナシギジラミについては、佐賀県をはじめ各方面のご尽力により、迅速な農薬登録が実現した点が高く評価されます。これら国内での研究蓄積がない病害虫については、基本的な生態の解明と当面の防除法の確立が重要です。

(独)農研機構果樹研究所では、これら現場での問題に対応し、公立試験研究機関をはじめ行政部局とも連携して問題解決にあたっています。長年の懸案であったナシ萎縮病の病原体が明らかになったことから、各地で病徴の目合わせと防除のためのワークショップ等も開催致しました。また、将来の実用化を視野に、虫害分野では農業に有用な生物の多様性を維持し、土着天敵を効果的に利用する技術などを核とした害虫制御技術の研究に、病害分野では白紋羽病などの難防除病害について、温水治療、拮抗菌、マイコウイルスを利用したヴァイロコントロールなど多面的なアプローチで総合防除を目指す研究にも力を入れています。

今後とも果樹の病害虫研究の推進にあたりまして、関係各位のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。